

ペリオドンティクスの世界はダイナミックに変化をしている。私がアメリカでペリオを志した 1990 年代は、ペリオの世界がそれまでの歯周ポケット治療中心の学問から。インプラントへと大きく舵を取り始めた時代であった。

そもそも患者によって多様な病態を見せる歯周病の本質を知りたくて留学を志した私であったが、それについてはその当時にわかっていることを学び、またどうしたら歯周病の本質の解明のために学ばばいいのかという基礎を得ることができた。しかしそれと共に学んだのはバリエティに富んだ“臨床歯周病学“の世界でもあった。

90 年代は多くの治療法が開花した時期でもある。歯周組織再生療法、歯周形成外科、さらにインプラントとそれに付随する治療に代表されるものである。なかでもインプラントの積極的導入は、このスペシャルティの顔を変えようとし、数年前にはアメリカで学会名の変更 (American Academy of Periodontology から American Academy of Periodontology and **Implant Surgery**) が取りざたされるようになった。多数のインプラント埋入は、インプラント周囲炎という新たな疾患の蔓延を引き起こし、いったんは天然歯からインプラントへという流れに竿をさすかに見えたが、ここにきてその流れをさらに加速をしているように感じられる。

いまだにペリオの本質は“Save teeth”にあると考える私であるが、ペリオドンティクスというスペシャルティがどこに進もうとしているのか、過去を振り返りつつ考えていきたい。